

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	オムロン株式会社 代表取締役社長 山田 義仁								
事業者の主たる業種	電気・電子機器製造、販売								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成 20年 4月 ～ 平成 23年 3月								
基本方針	国内グループでは、京都議定書で定められた日本の温室効果ガス削減目標を受けて、2010年度にCO2排出量を1990年度比8.6%削減の目標を掲げ、各年度目標を達成する。								
推進体制	環境担当執行役員を長とする「グループ環境委員会」の重要テーマの1つとして温暖化対策を推進。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	別紙一覧表添付							
	取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	21	全部門共通	空調温度適正化、離席時PCモニター電源OFF、消灯などの日常管理徹底						
	21	全部門共通	空調、照明、熱源設備の運転効率化と省エネタイプへの更新						
	21	生産・研究開発部門	歩留まり向上による生産設備稼働短縮、実験設備やクリーンルーム運転効率化						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	14,334.8 t	14,117.3 t	-1.5 %	10,780.4 t	-24.8 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 14,334.8 t	*2 14,117.3 t	-1.5 %	*4 10,780.4 t	-24.8 %			
	実績に対する自己評価	全社での省エネ対策推進と事業悪化の影響により21年度時点で基準年度比-24.5%であった、22年度は事業回復によりエネルギー使用量が増加傾向になるところ、日常管理の強化によりほぼ21年度同等の実績が達成できた。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	当社では京都府内のプロパー拠点だけでなく、グループ会社を目標対象としており、生産、非生産、研究施設などエネルギー消費構造が異なるため、共通の原単位目標は設定していない。絶対量削減目標のみ設定。								
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	3.0 ha	（吸収量）	t	（整備面積）	3.0 ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3 t		*5 t			
	差引排出量	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
（排出合計－削減等合計）	*1 14,334.8 t	(*2)-(*3) 14,117.3 t	-1.5 %	(*4)-(*5) 10,780.4 t	-24.8 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	H22年度は9府県11カ所で開催した森林保全活動を実施。H20年4月に社団法人京都モデルフォレスト協会および京都府と「森林の利用保全に関する協定」を締結するなど、京都府下3ヶ所（綴喜郡井手町、綾部市、京都市右京区）で森林保全活動に取り組んでいる。								
特記事項	2011年6月21日付でオムロン株式会社、代表取締役社長に山田義仁が就任いたしました。昨年報告対象であったオムロンビジネスアソシエイツ㈱、オムロンマーケティング㈱は平成23年4月にオムロン㈱京都事業所内に移転したため個別対象から外し、京都事業所の実績報告に含む								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。